

総務省

「国及び地方公共団体公式ホームページのJIS規格対応状況調査結果説明会」

解説1 「国及び地方公共団体ホームページの JIS規格対応状況調査」 結果説明

2018年1月

説明会事務局（アライド・ブレインズ株式会社）

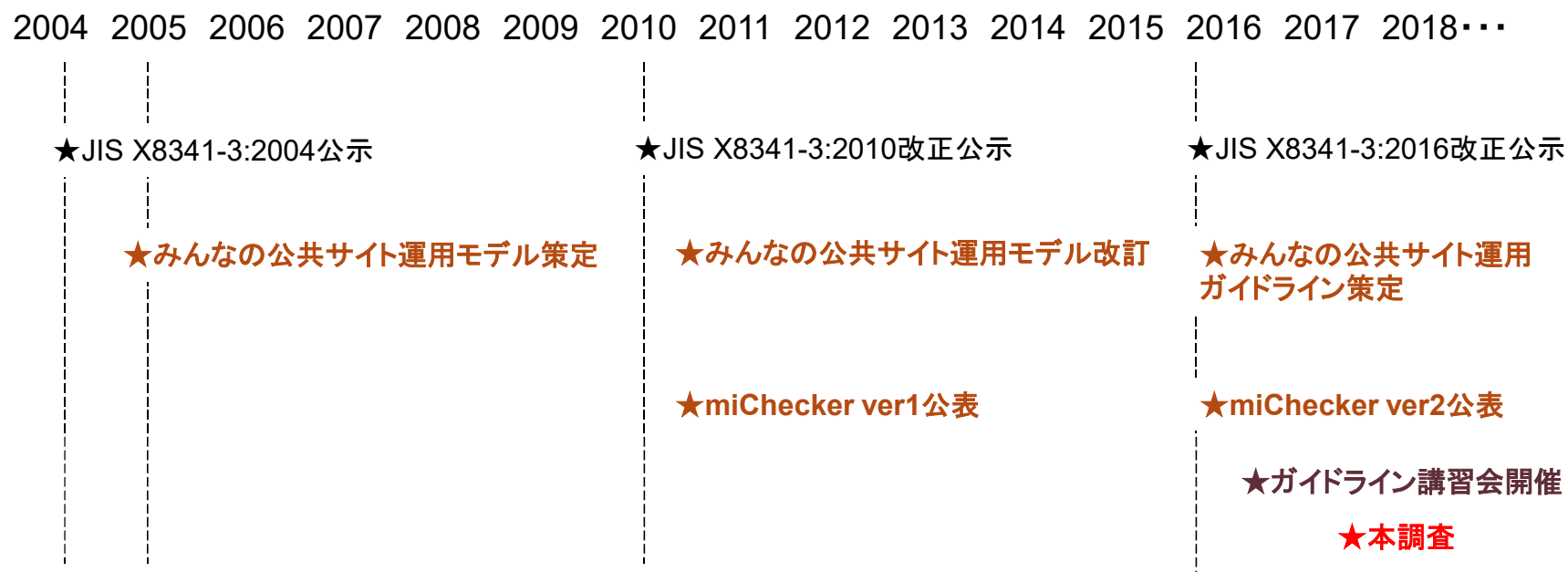
1.これまでの経緯

これまでの経緯

ウェブアクセシビリティの日本工業規格であるJIS X 8341-3は2004年に公示されました。

JIS X 8341-3の制定・改正に合わせて、総務省は、公的機関にウェブアクセシビリティの推進を求める「みんなの公共サイト運用モデル」を2005年に策定、2010年に改正し、2016年には内容をより分かりやすく刷新するとともに、「みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)」と名称を変更し、あらためて公表(*)しました。

また、総務省では、ウェブアクセシビリティの推進を支援する評価ツール「miChecker」を開発し、初期バージョンを2010年に公表、現行バージョンを2016年に公表(*)しました。



*:過去のみんなの公共サイト運用モデル、みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)、これまでに公表されたmiCheckerは、いずれも全国の地方公共団体に郵送で配布するとともに、総務省ホームページで公表されました。

2.調査について

調査について（１）

◆ 目的

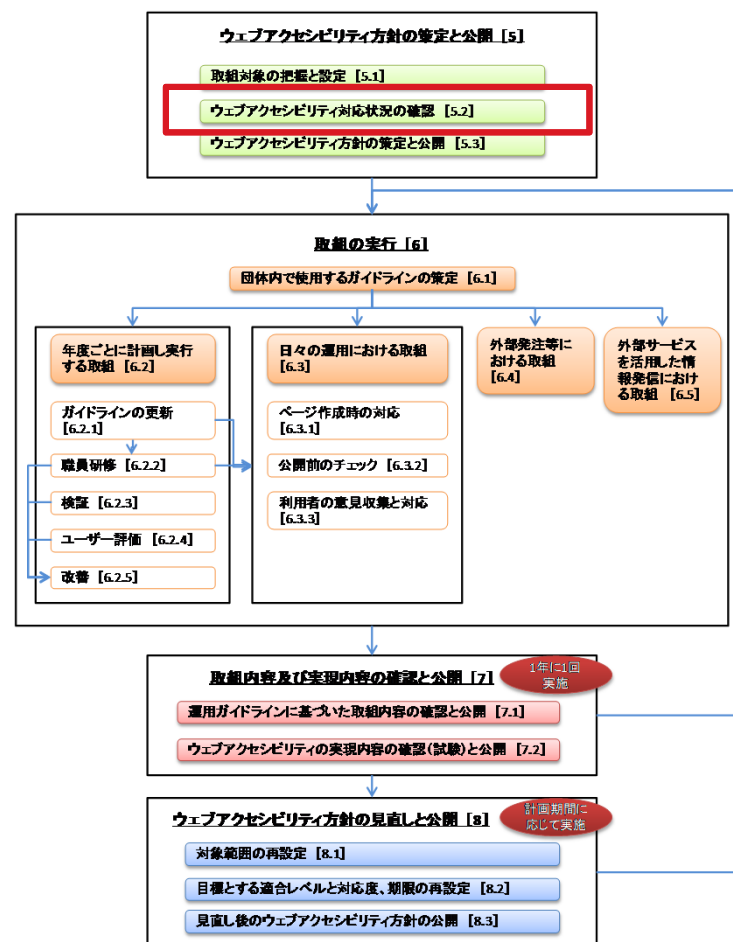
障害者差別解消法（2016年4月1日施行）、日本工業規格 JIS X 8341-3:2016（2016年3月22日改正）等により、公的機関に求められているウェブアクセシビリティ対応状況を明らかにする。

◆ 調査の位置づけ

みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）に示された取組のうち「5.2ウェブアクセシビリティの対応状況の確認」(*)の実施方法の一つである「チェックツールによる確認」を、公式ホームページの全ページに対して実施し、結果を公表することで、公的機関におけるウェブアクセシビリティへの取組を支援する。

*:みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）50ページ参照

みんなの公共サイト運用ガイドラインの全体像



調査について（２）

◆ 対象団体

- 国の機関 （４４団体）
- 地方公共団体 （１,７８８団体）

◆ 対象範囲

- 対象団体の公式ホームページの全ページ(*1)

*1: 公式ホームページのドメインで提供されているトップページからリンクを辿ってアクセス可能なページ(HTMLファイル)を対象とする。別ドメイン、サブドメインで提供されているページは対象としない。

調査について（３）

◆ 調査方法

- 総務省の提供するウェブアクセシビリティ評価ツール miChecker(*1)を用いて、インターネットを通じて機械的(*2)に JIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAに問題のあるページ数(*3)、問題の内容を調査する。

*1: miChecker(エムアイチェッカー): JIS X 8341-3:2016 に基づくウェブアクセシビリティ対応の取組を支援するために、総務省が開発し、提供するアクセシビリティ評価ツール。本調査は、総務省ホームページにて公開されている「miCheckerのソースコード」を活用し検証を実施している。

＜ miChecker 及びmiChecker のソースコードの入手方法を案内している総務省ホームページのアドレス＞

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/michecker.html

*2: 人による目視の調査については行わない。

*3: miCheckerの基準でJIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準の何れかに「問題あり」が検出されたページの数

3. miCheckerについて

◆ ウェブアクセシビリティ対応状況の確認の方法

みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)では、ウェブアクセシビリティの対応状況を確認する方法として、以下の3つの方法を例示し、それぞれに利点と注意点があることを説明しています。

- (1) 人による詳細な確認
- (2) チェックツールによる確認等
- (3) 利用者の使用しているソフト等を用い確認

「みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)」50ページ参照

miCheckerを用いた機械的な検証は、上記のうち「(2)チェックツールによる確認等」に該当します。

みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)では、「(2)チェックツールによる確認等」について、多くのページを対象に問題のあるページ等を把握したり、分析したりする方法として有効であると紹介するとともに、チェックツールにより機械的に確認できることには限りがあることについて説明しています。

例：miCheckerは代替テキストの有無や、付け方が適切でない可能性のある部分を問題として報告します。しかしながら、代替テキストの記載内容の適切さを完全に判断することはできません。（「miChecker達成基準別活用法」5ページより）

◆ miCheckerとは

「みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker(エムアイチェッカー)」は、JIS X 8341-3:2016に基づくウェブアクセシビリティ対応の取組を支援するために、総務省が開発し、提供するアクセシビリティ評価ツールです。

◆ 活用例

- 新しいページの公開前に、問題の有無を確認する
- 既に公開されているページの問題の有無を確認する
- リニューアルなどの際、事業者の作成したHTML雛形やページの検証を行う
- JIS X 8341-3:2016に基づく試験に活用する
- ウェブアクセシビリティに関する知識の習得に活用する

◆ 特徴

- アクセシビリティの検証は、機械的に評価できることと、人が判断しなければいけないことがあります。miCheckerは、機械的に検証可能な項目を自動的に評価するとともに、人による判断の支援を行います。
 - ◆ 明らかな問題がある箇所を特定します。
 - ◆ 問題の可能性が高い箇所、問題かどうかを人が判断すべき箇所を特定します。
 - ◆ 問題箇所や検証項目に該当するJIS X 8341-3:2016の関連情報へのリンクを提供し、理解を深められるよう支援します。
- JIS X 8341-3:2016に基づく試験の実施を支援する附属資料を提供します。
- 音声読み上げソフトによる読み上げ順や、高齢者・弱視者の見え方などを視覚的にシミュレーションし、人の判断や、ウェブアクセシビリティに関する問題の把握を支援します。

miCheckerについて（3）

運用ガイドライン P138

◆ 注意点

- miCheckerの附属資料等を参考に、人の判断により検証すべき項目が多数あります。JIS X 8341-3:2016に基づく検証を全て自動的に行えるものではありません。

◆ 入手方法

- miCheckerは総務省のホームページからダウンロード可能です。
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/michecker.html

miCheckerを実行した際の画面例

The screenshot shows the miChecker application window. It has a menu bar (File, View, Access, etc.), a toolbar, and a main content area. The main content area is divided into several sections:

- 元のページ (Original Page):** A callout box pointing to the top left section, which displays the homepage of the Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC).
- シミュレーション結果 (Simulation Results):** A callout box pointing to the top right section, which shows a list of simulated results, including items like 'Main Navigation Menu' and 'Footer Menu'.
- 情報アクセシビリティの確保 (Ensuring Information Accessibility):** A callout box pointing to the middle section, which contains a list of accessibility guidelines and a table of results.
- レポートを選択すると該当箇所をハイライト (Selecting a report highlights the relevant section):** A callout box pointing to the bottom left section, which shows a list of reports and a table of results.
- 詳細レポート (Detailed Report):** A callout box pointing to the bottom right section, which shows a detailed report for a specific item.
- JIS X 8341-3:2016の関連文書へのリンク (Link to related documents of JIS X 8341-3:2016):** A callout box pointing to the bottom right section, which shows a list of links to related documents.

miCheckerについて（４）

◆ miCheckerによる検証結果

miCheckerによる検証結果の説明

miCheckerによる検証結果	説明
問題あり	指摘された箇所に問題があります。
問題の可能性大	指摘された箇所に問題のある可能性が高い項目です。
要判断箇所	検証すべき箇所をツールが指摘し、検証作業はテスト方法に従って人が行います。必要に応じてmiCheckerや他のツールを活用します。
手動確認	ツールでは検証すべき箇所を指摘できない項目です。テスト方法にしたがって問題の有無を判断する必要があります。

miChecker付属文書「miCheckerを用いた試験手順書」より

4.JIS X 8341-3:2016の構成 と、本調査の集計内容について

JIS X 8341-3:2016の構成と、本調査の集計内容について（１）

◆ JIS X 8341-3:2016の適合レベルと達成基準

JIS X 8341-3:2016では、アクセシビリティを確保するための基準として、技術に依存しない形で書かれた61項目の達成基準が示されています。各達成基準は、最低レベルの適合レベルA（25項目）、適合レベルAA（13項目）、最高レベルの適合レベルAAA（23項目）に分類されており、総務省の提供する「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）」では、公的機関は適合レベルAAを満たすことが求められています。

JIS X 8341-3:2016の適合レベルと達成基準の数

適合レベル	達成基準の数
A	25項目
AA	13項目
AAA	23項目

「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）」56から57ページの内容、及び「miChecker達成基準別活用法」2ページの内容に基づき作成

JIS X 8341-3:2016の構成と、本調査の集計内容について（2）

◆ 本調査に関わるmiChecker検証結果の出力内容

miCheckerを実行した際の画面例と、本調査に関わる出力内容

達成基準

miCheckerの検証結果の詳細レポート画面では、「JIS」欄に、検出された指摘事項に該当するJIS X 8341-3:2016の達成基準番号が表示されます。

指摘事項

miCheckerの検証結果の詳細レポート画面では、「内容」欄に、検出された指摘事項が文章で表示されます。

JIS X 8341-3:2016の構成と、本調査の集計内容について（3）

◆ 本調査の集計内容

● 問題のあるページの割合

公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、miCheckerの基準でJIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準の何れかに「問題あり」が検出されたページ数の割合を集計。

● 達成基準別の問題のあるページの割合

JIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準ごとに、公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、「問題あり」が検出されたページの割合を集計。

● 検出されたページが多い指摘事項（問題の内容）

「問題あり」の各指摘事項（問題の内容）ごとに、公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、検出されたページの割合を集計。

5.調査結果

調査結果（１）

◆ 団体種別ごとの結果

- 公式ホームページの全ページ（全HTMLファイル）に対して、問題のあるページの割合を集計。
- 調査対象全体の平均は52.97%。
- 国の機関の平均は46.31%。地方公共団体の平均は、53.79%。

団体種別ごとの問題のあるページの割合

	団体数	問題のあるページの割合
国の機関	44	46.31%
都道府県	47	41.08%
指定都市	20	47.96%
その他市	771	53.86%
特別区	23	40.60%
町村	927	66.95%
合計	1,832	52.97%

調査結果（２）

◆ 地方別の結果

- 公式ホームページの全ページ（全HTMLファイル）に対して、問題のあるページの割合を集計。
- 都道府県と指定都市を除く、その他市及び町村の地方別結果平均を比較すると、関東地方で問題のあるページの割合が48.29%と最も少ない。問題のあるページの割合が50%以下の地方は、関東地方のほか、近畿地方（49.27%）、東海地方（49.84%）であった。

都道府県と指定都市を除く、その他市及び町村の地方別結果平均

	団体数	問題のあるページの割合
北海道地方	178	65.24%
東北地方	226	70.29%
関東地方	338	48.29%
信越地方	106	61.90%
北陸地方	51	68.92%
東海地方	157	49.84%
近畿地方	194	49.27%
中国地方	105	67.22%
四国地方	95	61.54%
九州地方	230	58.61%
沖縄地方	41	82.89%

調査結果（３）

◆ 総ページ数別の結果

- 5千ページ未満の団体のホームページでも、平均すると5割を超えるページで問題が確認されている。

総ページ数別の問題のあるページの割合

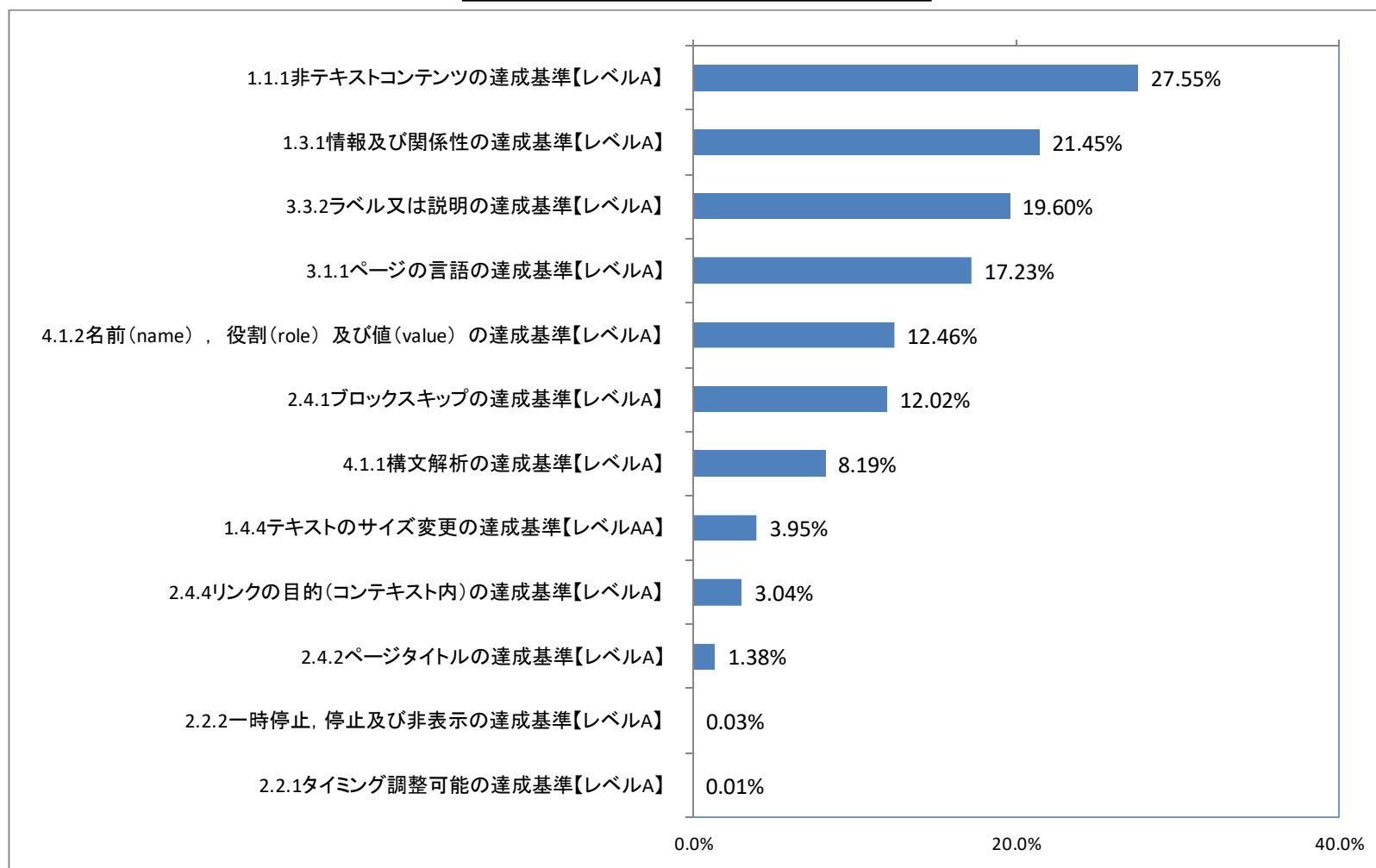
総ページ数	団体数	問題のあるページの割合
5千未満	1,160	54.83%
5千以上1万未満	317	56.92%
1万以上3万未満	261	55.61%
3万以上5万未満	49	56.93%
5万以上10万未満	32	46.24%
10万以上	13	43.04%
総計	1,832	52.97%

調査結果（４）

◆ 問題のあるページの多い達成基準

- 最も問題のあるページの割合が多かった達成基準は、適合レベルAの「1.1.1 非テキストコンテンツの達成基準」。
- 多くのページで、適合レベルAの達成基準に問題が生じている。

問題のあるページの多い達成基準

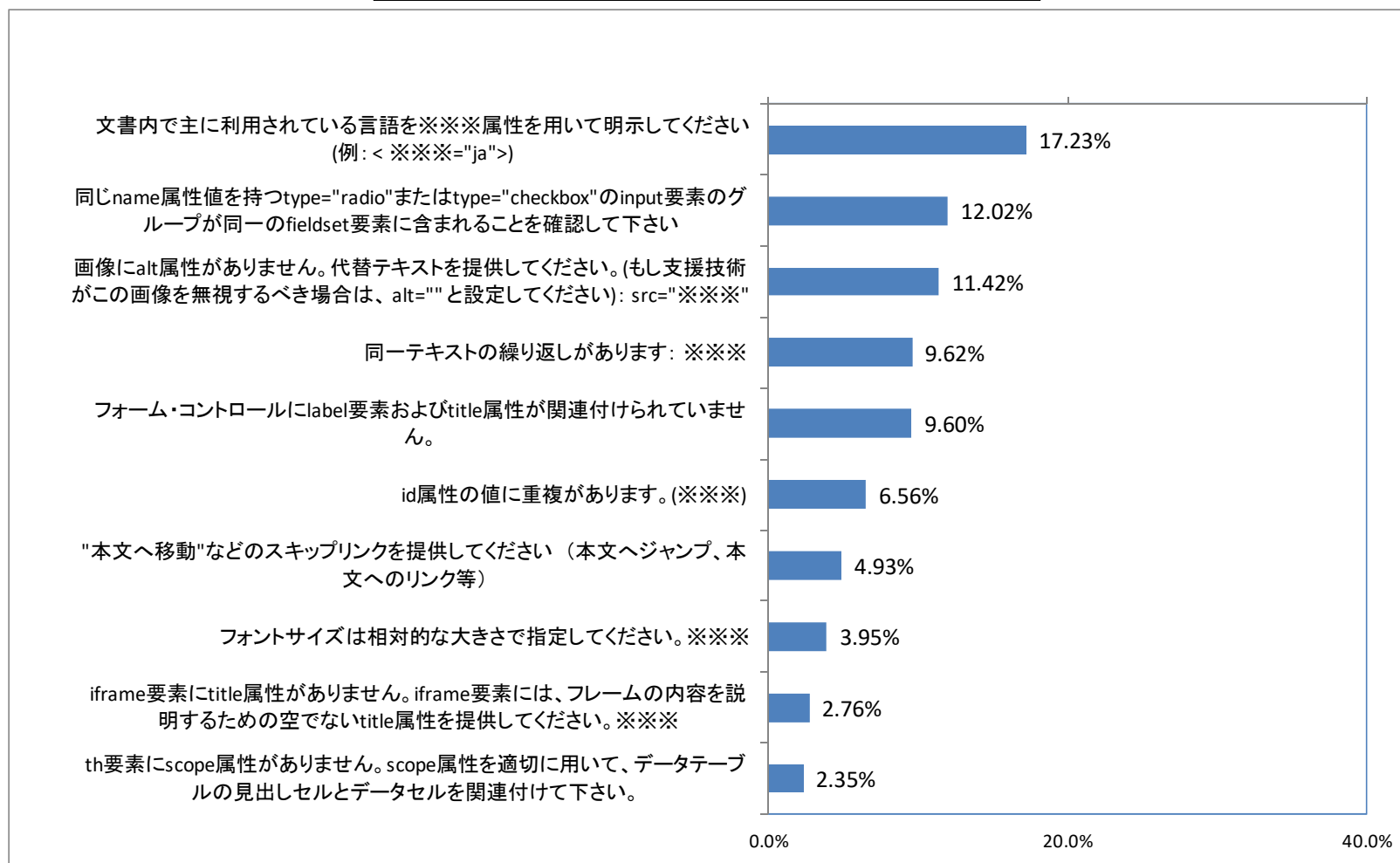


調査結果（５）

◆ 検出されたページが多い指摘事項（問題の内容）

- 機械的に「問題あり」と判定された事項は多岐にわたる。（「問題あり」の多い上位5件について「6.主な問題点」を参照）

検出されたページが多い指摘事項（問題の内容）



「※※※」と記載がある箇所は、miCheckerで個々のページを検証した際に、問題のあるページ名やページ内の該当する用語等が具体的に記載される箇所です。本調査は、全ページを対象にした検証結果であるため、この箇所について統一的に「※※※」と記載しています。

6.主な問題点

主な問題点（１）

ページの言語に関わる主な問題

✓ 文書内で主に利用されている言語を※※※属性を用いて明示してください (例: < ※※※="ja">)

「※※※」と記載がある箇所は、miCheckerで個々のページを検証した際に、問題のあるページ名やページ内の該当する用語等が具体的に記載される箇所です。本調査は、全ページを対象にした検証結果であるため、この箇所について統一的に「※※※」と記載しています。

【問題の内容に関する補足説明】

「そのページが何語で書かれているか」(日本語なのか、英語なのか、中国語なのか等)について、音声読み上げソフト等に伝えるための情報が欠落している。

具体的な問題の例:

- ◆ 目の見えない利用者が音声読み上げソフトでページを読む場合に、その言語に適した読み上げ方で読むことが出来ない恐れがある。

フォームに関わる主な問題

- ✓ 同じname属性値を持つtype="radio"またはtype="checkbox"のinput要素のグループが同一のfieldset要素に含まれることを確認して下さい
- ✓ フォーム・コントロールにlabel要素およびtitle属性が関連付けられていません。

【問題の内容に関する補足説明】

複数の入力欄が並んでいるような場合に、それらの関係性が明確に表されていない。

具体的な問題の例：

- ◆ 目の見えない利用者が音声読み上げソフトでページを読む場合に、設問文と選択肢の関係性を理解しにくい。

入力欄とその名称（選択肢の文字列など）の関係性が明確に表されていない。

具体的な問題の例：

- ◆ アンケートの選択肢の文字列をクリックしても、ラジオボタンにチェックが入らない。

主な問題点（3）

画像に関わる主な問題

- ✓ 画像にalt属性がありません。代替テキストを提供してください。(もし支援技術がこの画像を無視すべき場合は、alt="" と設定してください): src="※※※"
- ✓ 同一テキストの繰り返しがあります: ※※※

「※※※」と記載がある箇所は、miCheckerで個々のページを検証した際に、問題のあるページ名やページ内の該当する用語等が具体的に記載される箇所です。本調査は、全ページを対象にした検証結果であるため、この箇所について統一的に「※※※」と記載しています。

【問題の内容に関する補足説明】

「その画像が何を意味しているのか」を音声読み上げソフトの利用者等に伝えるための説明文（代替テキスト）が無い。

具体的な問題の例:

- ◆ 目の見えない利用者が音声読み上げソフトでページを読む場合に、画像に書かれた内容が伝わらない。

画像の説明文（代替テキスト）の内容と、その前後に書かれているキャプションや見出しの内容が同じである。

具体的な問題の例:

- ◆ 目の見えない利用者が音声読み上げソフトでページを読む場合に、同じ内容が繰り返し読み上げられて混乱する。

7.各団体別調査結果の配布について

各団体別調査結果の配布について（１）

- ◆ 本日配布した調査結果に加えて、調査対象各団体別の調査結果として以下を取りまとめ、調査対象団体に当該団体の結果を掲載した資料を年度内に郵送にて送付する予定です。

1. 総ページ数

- ・ 公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）を集計。
- ・ 公式ホームページのドメインで提供されているトップページからリンクを辿ってアクセス可能なページ（HTMLファイル）を対象とする。別ドメイン、サブドメインで提供されているページは対象としない。
- ・ 調査実施時点の数。

2. 適合レベルA及びAAを満たさないページ数

- ・ miCheckerの基準でJIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準の何れかに「問題あり」が検出されたページ数を集計。

3. 問題のあるページの割合

- ・ 公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、miCheckerの基準でJIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準の何れかに「問題あり」が検出されたページ数の割合を集計。

4. 問題の多い達成基準（上位5件）

- ・ JIS X 8341-3:2016の適合レベルA及びAAの各達成基準ごとに、公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、「問題あり」が検出されたページの割合を集計。

5. 該当するページの多い指摘事項（上位5件）

- ・ 「問題あり」の各指摘事項（問題の内容）ごとに、公式ホームページの全ページ数（検証対象となった全HTMLファイル数）に対し、検出されたページの割合を集計。

各団体別調査結果の配布について（2）

各団体別調査結果を踏まえ、みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016年版)を活用し、ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上の取組を実施してください。

⇒みんなの公共サイト運用ガイドライン(2016)年版の示す具体的な取組内容については、解説2を参考にしてください。